

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところに掲示し、申し送りの場や会議の際に確認を行っている	事業所独自の4つの理念の中に、近所づきあいや自然との触れ合いを大切にしていとの表現で地域密着型サービスの意義を盛り込み年に1回ユニットごとの評価と見直しを行い共有と実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への行事へも積極的に参加させていただいている。又、広報誌を回覧板で回してもらい、ホームでの生活はどのようなものであるのか理解していただけるように努めている	地域住民の一員であるとの意識で町内会に加入し、清掃や防災訓練、秋祭り等地域の諸活動・行事に参加している。また、ホームの広報紙の回覧板を廻すなどの啓蒙活動も行っていて、日常的な交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	鉤取新田町町内会にて行われている、ケア会議に参加させていただき、一人暮らしのお年寄りや認知症のお年寄りが地域で見守りを行いながら安心して生活していただくにはどのようにしていくべきか地域の方々話し合いを持っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出していたご意見や、アドバイスなどは、真摯に受け止め、サービスの向上につなげることが出来るよう、各ユニットで話し合いを行っている	会議は年6回開催しており双方向的な運営をしている。出された意見・要望は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かす努力をしている。家族代表の参加について時間調整等の働きかけを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事がある時は、その都度市町村に確認を取るようになっている。	広報紙「やすらぎ」の送付だけでなく、法(省)令等の解釈運用や空室の相談等行政の担当者との日常的連携をしており、顔の見える関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会を設置しており、メンバーが研修に参加している。参加後、伝達講習を行っている	日中は鍵を掛けていない。利用者個々の外出傾向を把握し、見守りに徹している。また、家族はもちろん地域住民の方々にも理解を求め協力して頂いている。さらに、全職員が身体拘束をしない研修(伝達講習を含め)に参加し共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で日常起こっている会話や対応などを抽出して虐待や身体拘束に当てはまるかなど検証し委員の職員以外にも周知徹底している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加しており伝達講習を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入退去時にその都度ご説明している。又ご不明の点などある場合はその都度ご説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が話す機会を作れるように職員や管理者から面会時に積極的に話し掛けている。入居者の方々に対しては訪問介護員の方を今年度よりお願いしており入居者の方々とお話をする中でご要望がある場合はその都度職員におろしている。	第三者委員を含め重要事項説明書に明記し、玄関には苦情受付窓口、意見箱を設置している。また、家族が来訪の際も説明している。さらに要望の形のものには運営推進会議の中で対応する場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から会議の場などから運営に関する意見がある場合はその都度反映するようにしている。必要があれば法人に報告している	事業所の運営に関する委員会を定期的に行っている。(全体会議、ユニット毎とも月に1回)その中で実行に移されたものとしてはケアプランの見直しにあたっての家族の要望とコミュニケーション、リハビリ等の質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に一人ひとりに自己評価を行い、それを元に職員一人ひとりと面談を行っている。結果に伴い、給与水準をきめている。又、労働時間などは本人の希望に添えるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に合わせて、出来ることは職員におろして行ってもらうようにしたり研修の参加を促すようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加し知り合った同業者と交流会をおこなっている。又、同法人内にグループホームが増えたため交流などを持って相互訪問などを行っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査などを通して、ご本人様から困っている事や気にしていることなど聴取し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と相談していきながら家族様にとっても、入居される方にとっても納得できるような形になるよう細かく話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に起こりうる混乱を少なく出来るよう、今まで受けていたサービスを今後も受けられるようにご本人やご家族と相談しながら提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ、自分で出来るところは行っていただき、出来ないところを職員が手伝わせていただくように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは情報を共有しながら入居者の方を支えていけるようその都度お声掛けし相談しながら入居者の方々を支えていく体制をとっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力していただきながら出来るだけ入居前と同じ環境になるように配慮している(なじみの病院や美容院、民生委員の方や知人の方の面会に来ていただいている)	入居者の大部分が近在の方なので、昔馴染みの友人に訪訪して頂けないものか家族の協力をお願いしたところ、面会に来られた方がおり、喜んで頂いたとのことで、その後も継続して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなかコミュニケーションが取れない方に対して職員が介入しコミュニケーションが取れるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合などもお見舞いなどに行くようにしている。又退去時に困ったことがある時はいつでも相談にのる旨を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをする際に本人様の常日頃の言動や表情から本人様の希望などを引き出すようにしている。	入居者の日々の言動や生活の様子を見ながら、思いや意向の把握に努めている。また、家族の来訪時に本人の情報を教えてもらい、それをユニット会議で出し合い全職員で情報の共有化に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や利用していた事業所に聴取するようにしている。入居後も知り得た情報やその都度追加していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に一日の様子を細かく記載しユニット会議で個人検討を行いスタッフ間で情報の共有、今後の介助の指針等を話し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際にサービス担当者会議を行い検討するものや、追加すべき項目などを検討し介護計画に反映させている	ユニット毎にアセスメントを行い、家族や主治医の意見を取り入れて個別のケアプランを作成している。それを職員会議で話し合い、共有化と同時に家族の同意を得ている。また、月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎見直しをしている。尚、状況の変化の際には随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に細かく様子などを載せるようにし、情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や、ご家族のニーズに添って提供できるサービスなどを検討し提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのある美容室に通ったり、本人様が希望されるときに買い物などに行くことが出来るように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方々やご家族が希望されている病院に通っていただき、協力医療機関でなくとも必要に応じて連携をとりながら行っている	入居者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は状況により職員が同行支援しており、受診後に家族に電話報告することで同意を得ている。協力医療機関とも良好な関係にある。尚、看護師は24時間連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧の数値など気になる点などはその都度看護師に報告し指示を仰いでいる。又看護師不在の場合は協力医療機関に指示を仰ぎ必要時受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間が短くすむように入院後早めに入院先の医師や相談員などと情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様やご家族はもちろん主治医や看護師、介護員も含めて話し合いを行っている。ご家族の希望を踏まえ、グループホームではどこまでが来てどこまでが出来ないのかを説明している。	入居時に重度化や終末期の看取りの指針について家族に説明すると同時に、書面による同意を得ている。また、状況に応じて家族、医師、看護師、職員間で繰り返し話し合うことで段階的な合意に努めており、家族からの要請には即応できる万全な体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にて行っている上級救命講習を受けている。新入職員も随時うけてもらうことにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っており、うち1回は夜間帯想定としその際は近隣の方に協力をいただいで避難訓練を行っている	マニュアルが作成されていて、年3回の避難訓練(1回は夜間想定)を実施している。地域住民の協力を得られていること、避難経路の確保や消火器等の設備点検、非常食の備蓄、ヘルメットの配備もされている。また、スプリンクラーの導入するため予算化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けや、入浴、排泄時には特に気をつけている。できるだけ同性介助を行うことや、一人ひとりの状態を見極めながらできることは行っていただけるよう支援している	入居者の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、言葉がけをはじめ対応に気を配り、日常のケアに取り組んでいる。また、個人記録の取り扱いや保管についても外部の目に触れないよう管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で起こりうるいろいろな場面でご本人様の意思確認をしながら支援に当たっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先しながら希望にそえるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着用する衣類を本人様に選んでいただいたり、希望されるときに美容室へ行っていただけるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みずからすすんで茶碗洗いを行っていただける方はもちろん、みずからされなくても職員と一緒に片付けなどを行っていただけるよう働きかけている。食事の味付けは後からつけるものに関しては一人ひとりの希望にそえるように支援している。	入居者と職員と一緒に調理、盛り付け、後片付け等やり、食事も同じものを同じ食卓で職員のさりげないサポートもあり、楽しい雰囲気のもと支援している。メニューは管理栄養士のチェックを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量を把握しており、食の細さやなかなか水分が進まない方に関してもこまめに提供することなど一人一人に合わせて行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしていただけるよう声掛け、介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しながらお声掛けを行っている。トイレに行くことなど拒否がある場合は時間を少し開けたり立ち上がったタイミングを狙ってお声掛けしている	トイレでの排泄に力を注ぎ自立支援に取り組んでいる。トイレは1ユニット3ヶ所である。うち1ヶ所は左利きの方が使用しやすいように手摺り等の工夫をしており、入居者の方も使い勝手が良いと話している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、乳製品の利用やオリゴ糖などを利用しながら排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、一人ひとりの希望にそえるようにしている。時間ものぼせない程度であればゆっくりと入浴していただいている。	1年365日何時でも入浴可能である。その日によって入浴を拒む方にはその理由を聞き、職員間で検討したうえで声がけしたり工夫している。時には近くの「極楽湯」に誘い同行することもあるとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方の不安なことがある場合は傾聴を行い安眠していただけるようにしている。布団で休むことを好まれる方にはベットではなく布団で休んでいただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が処方された場合は、申し送りを行うとともに受診報告書やお薬の説明書を必ず確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々の好きなことや、得意なことなどを把握し、本人様の調子が良い時お声がけを行い楽しんでいただけるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様が希望されるときは職員が対応し買い物などに出かけられるよう支援している。職員だけでは難しい場合はご家族様に連絡し出かけられるように支援している	月に1回ユニットごとに車椅子の方を含め外出支援をしている。また、誕生日には個別に外出に出かけている。遠いところでは、定義山や秋保温泉へのドライブ、近くはモールでの買物と映画鑑賞、西公園の散策、七夕祭の見物である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方々にはお小遣い程度持っている方もおりそこから買い物もされることもある。職員は自分で管理することの大切さも理解している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望されるときは電話の介助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節感が分かるような装飾を行ったり、入居者の方々が使いたいときに使うことができるように引き出しに何が入っているかわかるようにしている	3ユニットの建物自体が周囲の環境にマッチしていて好感が持てる。玄関周りをはじめ廊下、居間、台所、食堂、浴室何れも温湿管理し、居心地良く過ごせる工夫をこらしている。そのなかでも左利きの方の安全策を取り入れたトイレの工夫が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころに椅子を置いており一人でゆっくりと座っている方もいれば、仲の良い方とすごされる方もおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ってきていただけるようお声掛けしている。また、各居室に表札を作り自分の部屋だということが認識しやすいようにしている	広さも明るさも適切であり、使い慣れた家具類も持ち込まれ落ち着いて暮らせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分が何かをしたいと思ったときにすぐ使うことができるようにサイドボードやクローゼットの中に何が入っているかをわかるように張り出している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	壱番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成21年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースを大切に生活していただいています。その方のやりたいことを尊重し、外出の希望にも個別で対応しております。その方が何をしたいか、何ができるのか引き出しながらできることは自分で、難しいところは手伝いさせていただきながら役割を持って生活していただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に位置したグループホーム(3ユニット)である。近隣には同一法人が運営する総合病院、小規模多機能施設がある。さらには幼稚園、4月開校予定の小学校があり、周囲の環境に恵まれた事業所である。このホームの独自の基本理念は①笑顔②家庭③家族④地域の4点を管理者と職員全体が共有することで質の高いサービスを提供し、実践している。さらに医療法人であること、病院がすぐそばと言うこともあり、利用者の重度化終末期(看取り)に即対応できる体制が確立されていることもあり、利用者に安心感を与えている。家族アンケートからもそのことが見られる。また、地域住民との交流、協力関係も深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	貳番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成21年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が和気藹々と生活されています。職員はそのような場ができるだけ作れるようにサポートしています。特別なことはしていませんが、生活の主役は入居者の方であることを忘れずサポートしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に位置したグループホーム(3ユニット)である。近隣には同一法人が運営する総合病院、小規模多機能施設がある。さらには幼稚園、4月開校予定の小学校があり、周囲の環境に恵まれた事業所である。このホームの独自の基本理念は①笑顔②家庭③家族④地域の4点を管理者と職員全体が共有することで質の高いサービスを提供し、実践している。さらに医療法人であること、病院がすぐそばと言うこともあり、利用者の重度化終末期(看取り)に即対応できる体制が確立されていることもあり、利用者に安心感を与えている。家族アンケートからもそのことが見られる。また、地域住民との交流、協力関係も深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 式番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員理念の実践を常に心がけており、実践のためお互いがお互いを注意できる関係を作り日々努力している	事業所独自の4つの理念の中に、近所づきあいや自然との触れ合いを大切にしていくとの表現で地域密着型サービスの意義を盛り込み年に1回ユニットごとの評価と見直しを行い共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ホームの行事にはお互いに参加の声掛けを行いお互いに行事に参加し合っている。日常的に行き来はないものの常に気軽にお声をかけていただけるような関係を築いている	地域住民の一員であるとの意識で町内会に加入し、清掃や防災訓練、秋祭り等地域の諸活動・行事に参加している。また、ホームの広報紙の回覧板を廻すなどの啓蒙活動も行っていて、日常的な交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4～5回広報誌を発行している。その中でホームでの様子やグループホームはこういふところであるということを掲載している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている方々からホームのことについていろいろな意見を出していただいております。出来るだけ反映できるようにしている	会議は年6回開催しており双方向的な運営をしている。出された意見・要望は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かす努力をしている。家族代表の参加について時間調整等の働きかけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か分からないことがあるとその都度問い合わせを行うようにしている。ホームの広報誌をその都度送付し見ていただくようにしている	広報紙「やすらぎ」の送付だけでなく、法(省)令等の解釈運用や空室の相談等行政の担当者と日常的連携をしており、顔の見える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が日常の一場面を切り取り自分たちのケアは身体拘束を本で行っていないかどうか等職員の意識やアンケートを元に勉強会を開いている。	日中は鍵を掛けていない。利用者個々の外出傾向を把握し、見守りに徹している。また、家族はもちろん地域住民の方々にも理解を求め協力して頂いている。さらに、全職員が身体拘束をしない研修(伝達講習を含め)に参加し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様で日常の一場面から自分たちは虐待を本に行っていないのかどうかを職員に問いかけるような勉強会を開いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する研修にも出ており必要時にご家族様に説明し活用できるようお声掛けを行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はその都度ご説明しご不明の点などがある場合はその都度問い合わせただけようお声掛けしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族が来られた際に来るだけこちらから話しかけるようにし話しやすい関係をつくり、出てきた意見に対しては早急に反映させている。利用者の意見としては訪問介護員の方に今年度より来ていただいているためその際に利用者の方々から出た要望などはその都度職員におおしていただいている	第三者委員会を含め重要事項説明書に明記し、玄関には苦情受付窓口、意見箱を設置している。また、家族が来訪の際も説明している。さらに要望の形のものには運営推進会議の中で対応する場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度より各種委員会を設けており、その中で自分たちで考え意見を出してきており、必要時は法人本部へ報告し改善してもらえようようにしている	事業所の運営に関する委員会を定期的に行っている。(全体会議、ユニット毎とも月に1回)その中で実行に移されたものとしてはケアプランの見直しにあたっての家族の要望とコミュニケーション、リハビリ等の質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間などは臨機応変に働きやすいように相談に応じている。年1回自己評価を行い、それをもとに面談しその後1年の間に行うべきことをしっかり行えているかどうか見極め評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などは積極的に参加してもらっている。また職員によっては出来そうなものに関しては行ってもらうようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で出会った同業者と関わりをもつように話をしている。また、同法人内にグループホームが増えたため今後は関わりを持てるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人様の状況等を使っているサービスの担当者、ご家族、ご本人より聴取し入居の際に本人様の心配事を極力最小限にすることができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前までに何度か相談等を受けており入居の段階で不安に思われていることを反映されている状況を作るようにし、ご家族様が安心できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてから以前の状況と違いがあったとしても臨機応変に対応している。ほかのサービスの利用の検討も含めご家族様とも細かく連絡を取り合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHでの、職員と入居者の立場のあり方を理解しどのように暮らせば本人様が落ち着いた生活ができるのか常に考えている。そして同じ空間を生活していくためのかんけいを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフとご家族様は密に連絡を取り合っており面会にも支障をきたさない程度に来ていただいている。本人様が孤独に感じることがないように協力することができている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特に区切っておらず、来たいときに来てもらえるよう、環境を整えている。また、ご家族様にもご友人の方などがいらしたらいつでも来ていただいても大丈夫であることをお伝えしている	入居者の大部分が近在の方なので、昔馴染みの友人に来訪して頂けないものか家族の協力をお願いしたところ、面会に来られた方がおり、喜んで頂いたとのことで、その後も継続して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方々の性格を考慮し、合わない方でもどのように対応すれば一緒に楽しむことができる考えながら対応し笑って生活していただけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院での退去の場合はその後もお見舞いに行っている。退去後もご相談等があれば受けるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのご希望を確認し、困難な場合はその方の表情や反応から汲み取るようにしている	入居者の日々の言動や生活の様子を見ながら、思いや意向の把握に努めている。また、家族の来訪時に本人の情報を教えてもらい、それをユニット会議で出し合い全職員で情報の共有化に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどのように暮らしていたのかを理解しそれに少しでも近づけることが出来るようにケアプランに反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を用いて日常の変化、本人の精神状態を理解している。又、各スタッフが現状を把握し情報を共有することが出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族と相談し、それを踏まえて会議などでどのようにしていけば入居者の方によりよい生活を送ってもらえるか話し合いその結果をプランに反映することが出来ている	ユニット毎にアセスメントを行い、家族や主治医の意見を取り入れて個別のケアプランを作成している。それを職員会議で話し合い、共有化と同時に家族の同意を得ている。また、月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎見直しをしている。尚、状況の変化の際には随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の見直しや日常でのスタッフ間の会話の中や申し送り等で密に情報交換しておりそのことを元にケアプランに組み込むことが出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居希望の方に対しては日中だけのお試し体験を設けておりいろいろな人にどのようなものか体験してもらっている。入居者の方々に対してもそのときのニーズに合わせて提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設、スーパーを利用し買い物をしていただくなど一人ひとりが持っている力を発揮できるようにしている。又、入居者の方々がそのことを実感できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一番にはご家族様や、ご本人様の希望を優先している。主治医が決まっていない方に関しては協力医療機関を紹介している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は状況により職員が同行支援しており、受診後に家族に電話報告することで同意を得ている。協力医療機関とも良好な関係にある。尚、看護師は24時間連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師にも毎朝の申し送りに参加してもらっており、入居者の方々の日々の状況を理解してもらっている。日中いつも違う様子でもすぐに看護師と相談し受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関してはこちらでの状況を細かく申し送りを行い、治療が行いやすいようにしている。入院中は家族や病室を密に連絡を取り退院時にすぐに対応できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な状況になる前に家族に意思確認を行っている。ターミナル期になりそうな方が現におり家族の確認、スタッフの確認を行いひとつのチームとして取り組む準備は出来ている。又、ターミナルケアに備えて勉強会を行っている	入居時に重度化や終末期の看取りの指針について家族に説明すると同時に、書面による同意を得ている。また、状況に応じて家族、医師、看護師、職員間で繰り返し話し合うことで段階的な合意に努めており、家族からの要請には即応できる万全な体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のフローチャート、事故発生時のフローチャートを作成しており、各スタッフそのフローチャートを元に行動することが出来ている。誤嚥時の対応は必要時に訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回実施し、迅速かつ安全に非難できるように訓練している。地域の方にも訓練に参加していただいており流れを把握してもらっている	マニュアルが作成されていて、年3回の避難訓練(1回は夜間想定)を実施している。地域住民の協力を得られていること、避難経路の確保や消火器等の設備点検、非常食の備蓄、ヘルメットの配備もされている。また、スプリンクラーの導入するため予算化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室でスタッフ介入するときは必ず本人様に声掛けを行ってから介入するようにしている。居室にいるときは巡視を行いますが、一人の時間も大切にいただき一人ひとりを尊重しています	入居者の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、言葉がけをはじめ対応に気を配り、日常のケアに取り組んでいる。また、個人記録の取り扱いや保管についても外部の目に触れないよう管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを多くし本人の思いを引き出すようにしている。どうしたいのか、何をしていきたいのか、会話から自己決定をしていただけるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々から出た希望に関しては、そのときになえられるようにしている。家事や手作業、レクに関しては本人の希望にそって提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は本人様に声掛け氏その日の気分に合わせて服と一緒に選ぶようにしている。火紙を見ていただきくしを手渡しし、自ら好む髪型にしたりスカーフを巻いたりと自分だけのおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者の方々が協力し合い準備調理後片付けを行っている。入居者の好みに合わせた、味付けや食材を利用し、職員も一緒に同じものを食べ和やかな雰囲気作りのサポートを行っている	入居者と職員と一緒に調理、盛り付け、後片付け等を作り、食事も同じものを同じ食卓で職員のさりげないサポートもあり、楽しい雰囲気のもと支援している。メニューは管理栄養士のチェックを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は一人ひとりチェック表を作成し、月1回体重測定を行っている。協力医療機関の管理栄養士にメニューを見てもらい助言をいただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に残渣物があることが多く毎食後の口腔ケアを行っている。自立されている方に関してもお声掛けしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日一人ひとりのチェック表を作成し排便、排尿のチェックを行い排泄パターンを把握している。排泄パターンにあわせてトイレを誘導している	トイレでの排泄に力を注ぎ自立支援に取り組んでいる。トイレは1ユニット3ヶ所である。うち1ヶ所は左利きの方が使用しやすいように手摺り等の工夫をしており、入居者の方も使い勝手が良いと話している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため乳製品の提供やレクリエーションや散歩などにお誘いし、身体を動かす機会を作っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方々の希望に合わせて入浴できるよう毎日お風呂は稼働している。好きな時間帯に入れるよう希望を確認しながら入浴の時間を決めている	1年365日何時でも入浴可能である。その日によって入浴を拒む方にはその理由を聞き、職員間で検討したうえで声がけしたり工夫している。時には近くの「極楽湯」に誘い同行することもあるとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方々のペースの合わせて休みたい時間に休んでいただいている。声掛けにて、生活リズムが崩れないように配慮しながらゆっくり休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録の見やすいところに処方箋をはさんであり、どのような薬で、どのような副作用があるのかがわかるようになっている。又、薬の変更がある場合は受診報告書を作成し薬の変更時も必ず申し送るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々のやりたい事、自力でできることは行っていたり、できない事はスタッフと一緒にいたり他の方に手助けをしていただいたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方がいる場合はその方と仲のよい方などもお誘いしスタッフとともに出かけている。寒い日や天候が悪い日でも車などでドライブに切り替え外出している	月に1回ユニットごとに車椅子の方を含め外出支援をしている。また、誕生日には個別に外出に出かけている。遠いところでは、定義山や秋保温泉へのドライブ、近くはモールでの買物と映画鑑賞、西公園の散策、七夕祭の見物である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持つことで安心される方も折られるためご家族様にも協力していただきながらご自分で管理していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があるときには電話の支援を行ったり電話で話すことが困難である場合もスタッフが間に入り用件を伝えられるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や天候に合わせて証明のON、OFFを行っている。廊下に写真を貼ったり季節に合ったものを飾ったりしている。時計も見たいときに確認できるように複数の場所におくようにしている	3ユニットの建物自体が周囲の環境にマッチしていて好感が持てる。玄関周りをはじめ廊下、居間、台所、食堂、浴室何れも温湿管理し、居心地良く過ごせる工夫をこらしている。そのなかでも左利きの方の安全策を取り入れたトイレの工夫が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにたたみ席やソファを置き好きなどところに座れるように配慮している。入居者の方々が家事手伝いや、お茶ができるようにスペースを分けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器は個人それぞれのものを使用している。居室には本人が今まで使用してきたものを置いたり本人に合った間取りを提供している	広さも明るさも適切であり、使い慣れた家具類も持ち込まれ落ち着いて暮らせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりがあり歩行が不安定な方に使っていただけるよう声がけしている。又、安全に歩けるように見守りを行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成21年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日をゆったりとした時間の中で生活しています。何をすることも入居者の方と、職員とが何でも一緒に歩いており楽しく生活しています。職員はできるだけそのような空間を保てるように支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に位置したグループホーム(3ユニット)である。近隣には同一法人が運営する総合病院、小規模多機能施設がある。さらには幼稚園、4月開校予定の小学校があり、周囲の環境に恵まれた事業所である。このホームの独自の基本理念は①笑顔②家庭③家族④地域の4点を管理者と職員全体が共有することで質の高いサービスを提供し、実践している。さらに医療法人であること、病院がすぐそばと言うこともあり、利用者の重度化終末期(看取り)に即対応できる体制が確立されていることもあり、利用者に安心感を与えている。家族アンケートからもそのことが見られる。また、地域住民との交流、協力関係も深められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所で独自の理念を作っており職員全員が理念を理解し実践できるよう会議の場などで話をするようにしている	事業所独自の4つの理念の中に、近所づきあいや自然との触れ合いを大切にしていくと表現で地域密着型サービスの意義を盛り込み年に1回ユニットごとの評価と見直しを行い共有と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会にも入っており、その都度いろいろご協力をいただいている。又日常的にも挨拶などをとおして関係を作り、暖かく見守っていただいている	地域住民の一員であるとの意識で町内会に加入し、清掃や防災訓練、秋祭り等地域の諸活動・行事に参加している。また、ホームの広報紙の回覧板を廻すなどの啓蒙活動も行っていて、日常的な交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームはどのような所なのか等、広報誌を作成し回覧板で回してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、その場で出た意見などは職員で検討し、会議に参加していただいているメンバーや職員とともによりより生活の場に行っている	会議は年6回開催しており双方向的な運営をしている。出された意見・要望は職員会議で検討し、サービスの質の向上に活かす努力をしている。家族代表の参加について時間調整等の働きかけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問の点などはできるだけ市町村に確認を行うようにしている。又広報誌を区役所や仙台市に送付している	広報紙「やすらぎ」の送付だけでなく、法(省)令等の解釈運用や空室の相談等行政の担当者と日常的連携をしており、顔の見える関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修へ参加し参加したメンバーより伝達研修を行っている。又、日々のケアを見直し知らずに身体拘束を行っていないかなどを検証している	日中は鍵を掛けていない。利用者個々の外出傾向を把握し、見守りに徹している。また、家族はもちろん地域住民の方々にも理解を求め協力して頂いている。さらに、全職員が身体拘束をしない研修(伝達講習を含め)に参加し共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に参加し、伝達講習をホームでも行っている。身体拘束同様、日々のケアをみなおし、虐待をしていないかどうかを検証している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、必要な方に対しては制度を利用できるよう支援している。全職員は理解しているとはいえないため今後研修を行っていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約終了時は十分に説明を行っているが、不明な点などがある場合はその都度ご説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しておりご意見をいただけるようにしている。家族会などは設けていないため、ご家族様が面会時に気軽にいろいろ話していただけるような関係作りに努めている	第三者委員を含め重要事項説明書に明記し、玄関には苦情受付窓口、意見箱を設置している。また、家族が来訪の際も説明している。さらに要望の形のものは運営推進会議の中で対応する場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設けており、委員会の会議に時折参加している。それにおける提案などではできるだけ尊重できるように対応している。	事業所の運営に関する委員会を定期的に行っている。(全体会議、ユニット毎とも月に1回)その中で実行に移されたものとしてはケアプランの見直しにあたっての家族の要望とコミュニケーション、リハビリ等の質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの能力に応じてできことをしっかり行っているかを見極めし給与水準に反映している。又労働時間などはできるだけ相談に応じるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加してもらうようになっている。研修内容を伝達講習のような形で全体会議の際に話してもらうようになっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加などを通し他の施設などの同業者との交流を通し情報交換などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりのときは特に本人様の声に耳を傾け、何に困っているのか、不安なのかを感じ取り少しでも問題が解消されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話もよく効きながら、ご要望や困っていることなどを聴取している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や、ご本人様、それまで利用していた事業所より知り得た情報を元にケアプランを作成し、反映させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人その人の個性を把握しながら、その人らしい生活を送っていただきながら、入居者の方々が何でも話していただけるような環境を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の小さな変化でも面会時や電話にて報告をしている。又、面会に少しでも多く来て頂けるよう働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にはご本人様が仲のよかった方にもご面会に来て頂けるよう働きかけている。又、面会にこられた際にはゆっくり話をしていただけるようお茶などを提供している	入居者の大部分が近在の方なので、昔馴染みの友人に訪訪して頂けないものか家族の協力をお願いしたところ、面会に来られた方がおり、喜んで頂いたとのことで、その後も継続して取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の関係は把握しており、他者との関わりを好まれない方に関しては無理をせず、孤立しない程度に職員介入をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退去された方に関するもお見舞いに行くようにしている。ご家族からのご相談にも応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方々との会話や、表情から思いや希望を汲み取るようにしている。又職員一人ひとりが持っている情報をユニット会議の際に出し合い情報の共有をしている	入居者の日々の言動や生活の様子を見ながら、思いや意向の把握に努めている。また、家族の来訪時に本人の情報を教えてもらい、それをユニット会議で出し合い全職員で情報の共有化に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や入居者の方から聴取するようにしている。又、入居後に知ることができた情報もその都度付け足していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に残すとともに、スタッフ同士の声掛けを行い把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議を開き話し合いをするようにしている。出来上がったケアプランに関しても現状に合っているか話し合い、修正を行っている	ユニット毎にアセスメントを行い、家族や主治医の意見を取り入れて個別のケアプランを作成している。それを職員会議で話し合い、共有化と同時に家族の同意を得ている。また、月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎見直しをしている。尚、状況の変化の際には随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの様子や、ケアの内容を記録に残している。又、日常の変化などスタッフ同士でも話をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ入居者の方々のニーズにはご家族様にも協力していただきながら対応していくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元にあるスーパーや、美容室を使用し自分の能力を発揮できる場面を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や、ご本人様の希望されている病院に通院していただいている。そのような方に関しては医師に入居者の方の現状や、変化のあったことなどメモなどをお渡しし把握していただけるようにしている。	入居者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は状況により職員が同行支援しており、受診後に家族に電話報告することで同意を得ている。協力医療機関とも良好な関係にある。尚、看護師は24時間連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方で気づいたことなどがある場合はNSに報告し指示を仰ぐようにしている。又、NSが不在の場合は協力医療機関に連絡し受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてから早めの段階に担当の医師と面談を行いどの程度の入院になるのかなど確認をしている。ご家族ともこまめに連絡を取り本人様の状況を確認している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期に入りそうな方がいる場合はご家族様に今後の意思確認を行い、ホームでの見取りを希望される場合は、医師や、看護師、管理者、介護員、ご家族と話し合いの場をその都度持つようにしている	入居時に重度化や終末期の看取りの指針について家族に説明すると同時に、書面による同意を得ている。また、状況に応じて家族、医師、看護師、職員間で繰り返し話し合うことで段階的な合意に努めており、家族からの要請には即応できる万全な体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命の講習にできるだけ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行っている。そのほかにも避難訓練の動作、方法が身につくように訓練の回数を増やしていく予定である。又地域の方々にも避難訓練に参加していただいている	マニュアルが作成されていて、年3回の避難訓練(1回は夜間想定)を実施している。地域住民の協力を得られていること、避難経路の確保や消火器等の設備点検、非常食の備蓄、ヘルメットの配備もされている。また、スプリンクラーの導入するため予算化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の話のときなどはもちろん、排泄の声掛けや居室に入るときなども、ご本人様のプライバシーを侵害しないような対応を行っている	入居者の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、言葉がけをはじめ対応に気を配り、日常のケアに取り組んでいる。また、個人記録の取り扱いや保管についても外部の目に触れないよう管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定の機会を増やしている。又、自分から何をしたい、食べたいなどの希望をあらわすことが難しい方もいるため工夫しながら自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間をあまり決めずに一人ひとりになるべく合わせた時間で対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームにいるときの服と外出するときに着る服は別にして、お化粧を希望される方に関してはお手伝いしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の盛り付けや、調理なども手伝っていただきながら職員と一緒にやっている。片付けもできる方に関しては自分で洗っていただき、出来ない方に関してはできる方に手伝っていただいている	入居者と職員と一緒に調理、盛り付け、後片付け等を作り、食事も同じものを同じ食卓で職員のさりげないサポートもあり、楽しい雰囲気のもと支援している。メニューは管理栄養士のチェックを受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を一人ひとり確認している。水分摂られない方に関しては代替品の検討なども行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはできる方に関しては自力で行っていただき難しい方に関しては介助し口腔内の清潔を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレに行かれていないような方にお声がけしている。又、拒否される方に対しても時間を置いてお声掛けしている	トイレでの排泄に力を注ぎ自立支援に取り組んでいる。トイレは1ユニット3ヶ所である。うち1ヶ所は左利きの方が使用しやすいように手摺り等の工夫をしており、入居者の方も使い勝手が良いと話している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただいたり乳製品の提供や運動する機会を多くする		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方々一人ひとりがどの時間に入るのがすきなのか、直接聞いたり、入浴時の反応などを見て把握している。入浴を好まない方には歌や、会話をしながら気分を上げていただいてから入浴のお声掛けを行っている	1年365日何時でも入浴可能である。その日によって入浴を拒む方にはその理由を聞き、職員間で検討したうえで声がけしたり工夫している。時には近くの「極楽湯」に誘い同行することもあるとのことである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めておらず、それまでの生活習慣を崩すことなく休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録に残しておりいつでも目を通せるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことなど、自分でやりたいことを行っていただけるように必要な物をそろえたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望にはできるだけ添えるようにしている。又、誕生日の際に個別外出を行っており、ご本人様が行きたいところについていただくようにしている	月に1回ユニットごとに車椅子の方を含め外出支援をしている。また、誕生日には個別に外出に出かけている。遠いところでは、定義山や秋保温泉へのドライブ、近くはモールでの買物と映画鑑賞、西公園の散策、七夕祭の見物である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら、ご本人様がお金の管理をされることある。又難しい方でも支払いなどができる方にはご自分でお支払いしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に手紙を書かれたり、電話を希望される方に関しては支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた貼り絵を飾ったり、コタツを出したりと少しでも季節感が出るようにしている。	3ユニットの建物自体が周囲の環境にマッチしていて好感が持てる。玄関周りをはじめ廊下、居間、台所、食堂、浴室何れも温湿管理し、居心地良く過ごせる工夫をこらしている。そのなかでも左利きの方の安全策を取り入れたトイレの工夫が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファが集まりの場所になっている。そこで仲のいい方たちは一緒にすごされている。一人を好まれるときは居室に戻られたりテーブル席に座られたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今まで使用しているなじみのものを使用していただき混乱を最小限にとどめるようにしている	広さも明るさも適切であり、使い慣れた家具類も持ち込まれ落ち着いて暮らせる自分の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋には表札があり、トイレや浴室にも記入がある。又、道具がある場所など貼り出しておりどこに何があるのかがわかるようにし、使いたいときに使えるようにしている		